

香 緑(こうりよく)

登録番号：第1446号

育成者：福井正夫 末澤克彦

登録年月日：昭和62年11月12日

来歴：「ヘイワード」の自然交雑実

登録者：香川県（香川県高松市番町
4-1-10）

生

特 性

■栽培特性

樹勢は旺盛で、枝の伸長がよく、1～2年生樹では、「ヘイワード」の2倍に達することがある。葉の大きさは「ヘイワード」に比べてやや小さく、葉肉もやや薄い。

花は花卉の基部が大きくくびれており、花柱はやや斜立する。子房の型は頂部がとがった円筒形を示して、他の品種と明らかに異なる特徴がある。

結実の特性として、苗から着花する期間が短く、2年生樹でも着花を認め、定植2年目でかなり着果し、早期多収の望める品種である。1結果枝当たり6～7節の着果があり、さらに側果も着果するため着果過多になりやすい。また、枝の基部に着生する果実は偏平果などの奇形果になりやすいので摘果・摘蕾を徹底する。特に受粉後の仕上げ摘果は完全に行う必要がある。摘果が不十分だと小玉果となり商品価値をおとすことになる。

■果実特性

収穫は10月下旬から可能であり、「ヘイワード」より10日程度早熟性である。しかし、高糖度の果実を穫るためには11月中旬まで樹に置くことが望ましい。

果実の大きさは140g程度で「ヘイワード」と同じ程度である。形は円筒形で、果実の赤道部がややくびれている。果皮表面の毛じは密生していて硬く脱落しやすい。果皮色は薄い黄褐色である。

果肉の色は鮮やかな濃緑色を呈し、本種の特徴の一つである。果肉の糖度は「ヘイワード」よりも常に2～3度高く、酸が低いため、食味としての甘味を強く感じる。

追熟は容易で、追熟を開始すると他の品種より減酸が早く、果実硬度がある程度高くても可食状態になる。追熟が進み過ぎると酸が下がり過ぎて食味が低下する。

軟腐病に罹病しやすいため、その罹病果からエチレンが発生し、健全果まで軟化を促進させてしまう問題があり、それが可食期間を短くさせている。

貯蔵に当たって、エチレン吸着剤を使用し、低温で貯蔵すればかなりの長期間貯蔵できるが、減酸が早く、また果肉の緑色の退色等が認められることからあまり長期間の貯蔵は期待しない方がよい。

■病害虫抵抗性

軟腐病に罹りやすいため、他品種よりも徹底防除につとめる。貯蔵前に軟腐病果を除去する。

■地域適応性

現在のキウイフルーツ栽培地帯であれば、どこに導入しても問題ないと考えられる。

(廣瀬和榮)